

## 公正な社会の建設にはチュチェ思想の適用が必要

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会書記長  
ユハ・キエクシ

先ごろ、わたしたちは平壤において朝鮮労働党創立 80 周年を祝いました。そして本日、わたしたちはヘルシンキにおいてヨーロッパ・チュチェ思想研究学会創立 40 周年を記念しています。

本研究学会が創立された 40 年前、世界はこんにちとは大きく異なっていました。ヨーロッパには、ソ連を中心とする強固な社会主義陣営が存在し、アジアにおける社会主義の展望も安定していました。

しかし、ソ連を中心とする社会主義陣営の内部では、すでに危機が進行していました。社会主義の思想理論的基盤であるマルクス・レーニン主義に対する大衆の理解は十分ではなく、弁証法的唯物論や史的唯物論を大衆に深く教えることは困難と見なされていました。そのため、大衆は深い思想的理解を欠き、長期的な目標や社会主義建設の方法について統一性を保つことができませんでした。社会主義陣営が西側諸国に追いつこうと商品生産を競うことは、本来の目標からはかけ離れていました。

もちろん、ソ連・東欧における社会主義の崩壊には他の要因もありましたが、わたし自身はもっとも重要な要因の一つは、思想闘争の軽視であったと考えます。思想闘争は社会主義体制が樹立された後も長く続くものであり、金正恩総書記もしばしばこの点を強調されています。

朝鮮における社会主義建設は、当然ながらマルクス・レーニン主義—弁証法的唯物論と史的唯物論—の原理にもとづいて進められましたが、金日成主席は歴史的制約性を認識し、朝鮮人民の社会主義建設の要求にもっとも適合するチュチェ思想を創始しました。史的唯物論は社会制度の弁証法的発展を的確に説明しますが、社会主義・共産主義社会の建設に関しては不十分です。

朝鮮における社会主義建設は、チュチェ思想こそが人民の要求をもっともよく反映し、人民の要求と需要に即して社会主義社会を絶えず発展させることができることを示しました。

チュチェ思想によれば、人間はあらゆるものの主人であり、すべてを決定します。社会は政治的自主、経済的自立、国防における自衛の原則にもとづいてきずかれます。すなわち、各国の人民は、外部の介入をうけることなく、また、大国に依存することなく、自国を治めなければなりません。民族経済は国内資源にもとづいて自立しなければならず、国家は外国の援助なしに自らを防衛しなければなりません。

朝鮮においては、党が大衆の要求に耳を傾け、迅速に応えようと努めています。これにより、大衆と党、そして指導者との間に深い信頼の絆がきずかれました。党は他国のように大衆から遊離することなく、喜びも苦しみも常に大衆と共にあり、誰一人取り残されることなく、だれもが社会建設に積極的に参加しています。

チュチェ思想は社会主義建設におけるもっとも正しい思想理論であることが証明されたと言えます。これは、チュチェ思想研究者が、チュチェ思想を自国の実情に適用するうえでの思想理論的基礎となります。チュチェ思想研究とは、朝鮮の実践をそのまま模倣することではなく、チュチェ思想の基本原理に立脚しつつ、自国の革命をいかにおし進めていくかを研究することにほかなりません。

さて、西側諸国の状況は悪化の一途をたどっています。極端な個人主義の文化が蔓延し、人々は互いに競争を強いられ、他者を犠牲にして巨万の富を築いた者が称賛されています。資本主義体制は搾取にもとづいており、EU 諸国と米国など、帝国主義ブロックはその支配を維持するために常に新たな市場と資源を求めざるを得ません。その結果、西ヨーロッパでは極端な軍事化が進み、軍備のための資金は庶民から奪われ、人民の生活はますます疲弊していています。医療体制は悪化し民営化され、住宅費や食料品は高騰し、教育の基盤は弱体化していています。

西側社会体制が人民の声に耳を傾けていないことは明らかです。すべては国際独占資本の要求に従っておこなわれ、資本主義ブロックの利益を守るために仕組まれています。

このような状況のもとで、わたしたちチュチェ思想研究者には、果たすべき大きな役割があります。研究活動を深化させ、チュチェ思想が自国の社会発展を実現するうえで、何を意味するのかを考察しなければなりません。個人主義が蔓延する世界においてチュチェ思想を広めることは、一人から一人へと伝わるものであり、したがってどのような研究会も、その規模にかかわらず重要です。

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会は、1985年10月20日にパリで創立されて以来、40年間活動を続けてきました。同日開催されたセミナーにおいて、当時の会長エドモン・ジューブ教授はチュチェ思想の意義を次のように解説しました。

「民族解放と独立のための闘争の過程で、金日成主席は、朝鮮革命を成功裏に遂行するためには、自らの頭脳を用い、革命闘争の中で生じるすべての問題を自ら解決しなければならないことを悟られました。この経験にもとづき、金日成主席はチュチェ思想を創始し、社会生活のあらゆる分野に徹底的に適用されました。国が分断された困難な状況下にあっても、朝鮮人民はチュチェ思想の旗じるしのもとに力強い闘争を展開し、革命と建設のあらゆる分野で驚異的な進歩を遂げました。この成功こそがチュチェ思想の正当性を如実に示すものです」

チュチェ思想とその朝鮮における適用を学びましょう。そこにこそ、民主主義、福祉、そしてより公正な世界への道があるのです。